

## これからの院内感染対策として、 抗菌カーペットにできること。

今日ヘルスケア施設において  
重大な問題とされている院内感染。  
その対策として、抗菌カーペットが  
非常に大きな役割を果たすことが注目されています。  
インターフェイスのタイルカーペットに含まれる  
抗菌剤『インターセプト』は一般の抗菌剤にはない  
優れた利点があります



### インターセプトとは？

インターフェイスの抗菌剤インターセプトは、カーペットのバックキング材に混入されることで、細菌、バクテリア、カビをはじめMRSAなどの増殖を抑制します。その効果は半永久的で、人にやさしい室内環境を作ります。

### 150種類以上の菌に効果を発揮

インターセプトと他の抗菌剤との大きな違いとして、抗生物質に強く、カビと細菌の両方に効果があること、他の抗菌剤では難しいといわれるMRSA（メチシリン耐性ブドウ球菌）、チフス菌、赤痢菌、大腸菌、サルモネラ菌などのグラム陰性菌にも有効であることが挙げられます。また、これらの菌が出す不快な臭いをもとから断ち、快適な室内環境を保ちます。

### 効果の持続

従来の素材表面にスプレーする抗菌処理方法は、効力が短期間で落ちる欠点がありました。インターセプトは熱に強く、水に溶けにくいので、バックキング材そのものに混入できます。そのため、頻繁な歩行と繰り返されるメンテナンスの上でも、しっかりとした持続性と耐久性の抗菌機能を保ち、その効果は権威ある研究機関と癌研究会付属病院での7年に及ぶ臨床テスト結果によって立証されています。インターセプトの抗菌効果は、製品本体の寿命よりも長く持続します。

### 人体には全く無害

砒素、スズ、水銀などの重金属、ハロゲンなどの化合物、フェノールホルムアルデヒド等を一切含みません。またインターセプトのLD<sub>50</sub>値(2,300mg/kg)は食塩とほぼ同等。なめても無害なほどの安全性を誇るインターセプトは、人と環境に優しい抗菌剤です。

(米国環境保護省登録No.43670-1)

### 落下菌の定着

現在、院内感染対策で主にターゲットとされているのは、MRSAと大腸菌系のO-157です。MRSAの感染経路は健康な人からの検出が約1%、外来患者由来が約15%、入院患者由来は30~90%を占めていると言われ、院内が最大の感染源と言えます。MRSAは接触感染が主とされていますが、最近空気感染に対する対策の必要性も注目されてきました。塩ビ床材の場合、人の移動や空気の流れて、床に落ちた菌が空中で拡散しますが、カーペットは落下菌を定着させます。さらにインターフェイスのタイルカーペットには抗菌剤インターセプトが含まれ、この落下菌の繁殖を抑えることで、環境に対し優れた安全性を提供しています。